



## 2025年1月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年9月13日

上場会社名 株式会社バリューゴルフ 上場取引所 東  
コード番号 3931 URL <https://corp.valuegolf.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 水口 通夫  
問合せ先責任者 (役職名) 取締役 専務執行役員 (氏名) 渡辺 和昭 (TEL) 03-6435-1535  
半期報告書提出予定日 2024年9月13日 配当支払開始予定日 -  
決算補足説明資料作成の有無：有  
決算説明会開催の有無：無 ( )

(百万円未満切捨て)

### 1. 2025年1月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年2月1日～2024年7月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年1月期中間期	2,077	16.1	62	74.4	53	82.0	17	65.2
2024年1月期中間期	1,789	△22.4	35	△76.7	29	△77.0	10	△87.1

(注) 包括利益 2025年1月期中間期 18百万円 (84.5%) 2024年1月期中間期 10百万円 (△87.9%)

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2025年1月期中間期	9.94	-
2024年1月期中間期	6.02	-

(注) 潜在株式調整後1株当たり中間純利益は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年1月期中間期	2,796	1,142	40.8
2024年1月期	2,634	1,163	44.1

(参考) 自己資本 2025年1月期中間期 1,139百万円 2024年1月期 1,161百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年1月期	-	0.00	-	25.00	25.00
2025年1月期	-	0.00	-	-	-
2025年1月期（予想）	-	-	-	25.00	25.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年1月期の連結業績予想（2024年2月1日～2025年1月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,100	12.1	155	151.3	147	197.2	107	371.6	59.20

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

（1）当中間期における連結範囲の重要な変更：有

新規 2社 （社名）株式会社エスプリ・ゴルフ、株式会社ノア、除外 1社 （社名）-

（2）中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2025年1月期中間期	1,807,000株	2024年1月期	1,807,000株
2025年1月期中間期	191株	2024年1月期	191株
2025年1月期中間期	1,806,809株	2024年1月期中間期	1,806,809株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 中間連結貸借対照表	5
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	
中間連結会計期間	6
中間連結包括利益計算書	
中間連結会計期間	7
(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(中間連結貸借対照表に関する注記)	10
(中間連結損益計算書に関する注記)	10
(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	10
(セグメント情報等の注記)	11
(企業結合等関係)	12

## 1. 当中間決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間(2024年2月1日～2024年7月31日)におけるわが国経済は、経済活動の活性化が一層進み、景気は一部に足踏みも見られますが、緩やかな回復基調となりました。一方で、ロシアによるウクライナ侵攻の長期化による原材料・資源価格の高騰、急速な為替変動に伴うインフレの加速、金融資本市場の変動等、先行きは依然不透明な状況となっております。

ゴルフ事業を取り巻く環境におきましては、ゴルフ場利用者数の前年同月比が5月2.5%減、6月2.7%増となりました(経済産業省「特定サービス産業動態統計調査」)。燃料の高騰等に起因したプレー料金の高止まりにより、特に土日祝を中心に利用者数がやや減少傾向となっておりますが、依然としてゴルフが身近なレジャーとして多くのゴルファーに支持されていると考えられます。

トラベル事業を取り巻く環境におきましては、訪日外客数が5月3,040千人(前年同月比60.1%増)、6月3,135千人(前年同月比51.2%増)、7月3,292千人(前年同月比41.9%増)と回復傾向が続きました。特に6月、7月は単月としての過去最高記録を2か月連続で更新する結果となりました。また、出国日本人数も5月が941千人(前年同月比39.4%増)、6月が930千人(前年同月比32.3%増)、7月が1,048千人(2019年同月比17.6%増)と徐々に回復している傾向が見られます(日本政府観光局「JNTO」)。

このような環境の下、当社グループは『1人予約ランド』を核としたゴルフ事業の更なる拡大、トラベル事業における差別化を推進すべく、新たに2社の株式を取得する等、企業価値の向上を目指してまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の経営成績は、売上高2,077,738千円(前年同期比16.0%増)、営業利益62,303千円(前年同期比74.4%増)、経常利益53,608千円(前年同期比82.0%増)、親会社株主に帰属する中間純利益17,955千円(前年同期比65.2%増)となりました。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### (ゴルフ事業)

ゴルフ事業におきましては、ASPサービス『1人予約ランド』の会員数が引き続き堅調に推移し、2024年7月31日時点では110万人超となりました。2010年10月のサービス開始から約14年、ゴルフ場における1人予約のガリバーとして今後もより多くのユーザーから支持されるサービスとなるよう、更なる機能追加・改善を続けてまいります。また、人手不足をはじめとした経営課題に悩むゴルフ場に対し、その解決策として新サービス『リピ増くんDX』の販売を開始いたしました。ゴルフ場経営のDX化を進めることで日々の運営を省力化する他、今後はAIを活用した集客プロモーション等により課題を包括的に解決できるサービスとして機能の拡充を進めてまいります。

ECサービスにおきましては、米国における物価高及び円安の影響により、ゴルフクラブ販売における並行輸入品の価格優位性が失われる状況が続いております。これまで当社グループの強みとしてきた並行輸入品の販売は、当面の間、価格面での苦戦が予想されるため、今後は日本モデルの取り扱い割合を増やす等、全体の商品構成改変を進めてまいります。一方で、各店舗においては下取りサービスや免税販売に注力、インバウンド需要の取り込みや顧客の囲い込みを進めております。また、ゴルフ場への卸販売やゴルフ場内のプロショップの運営受託等の取り組みを推進し、並行輸入品の販売への依存度を下げた新たなビジネスモデルの構築を図ってまいりました。その結果、売上高は前年より大きく伸長しております。

レッスンサービスにおきましては、バリューゴルフ大崎、ジープーズゴルフクラブ浦安 by ValueGolfともに会員数が引き続き堅調に推移いたしました。店舗では定期的にフィッティング会を実施し、個人に合ったクラブ選びをサポートしております。試打・練習・レッスン・ショップと複合サービスを展開するゴルフ複合施設としてゴルファーより好評を得ており、様々な目的での来訪によりビジター利用も増加しております。今後はSNSを活用し幅広くゴルファーに周知させるとともに、より多くのニーズに応えるため、サービスやイベントの改善を進めてまいります。

以上の結果、売上高1,732,427千円(前年同期比6.6%増)、営業利益308,333千円(前年同期比43.2%増)となりました。

(トラベル事業)

トラベル事業におきましては、アウトバウンド・インバウンドともに旅行需要は高まっているものの、急激な為替変動や航空券市場における厳しい価格競争の影響を受け、当社グループも苦戦を強いられました。

一方、株式会社エスプリ・ゴルフでは、特にテーマ毎の内容にこだわったゴルフ旅行や海外の名門ゴルフ場とのコネクションを活かした高単価の旅行を催行し、新たな顧客層の開拓に成功いたしました。

今後は年末から来年に向け、各種ツアーの計画や仕入れを強化する他、現在、問い合わせが増加しているインバウンド需要の取り込みに注力してまいります。

以上の結果、売上高287,934千円(前年同期比88.0%増)、営業利益24,269千円(前年同期比162.1%増)となりました。

(その他の事業)

その他の事業セグメントにおきましては、5月より株式会社ノアが当社グループに加わることとなりました。同社はDX推進事業及びSES事業を展開しており、同社の持つスキルと経験を活用することによりゴルフ業界のDX推進を目指す当社グループにとって大きな推進力となることが期待されます。今度は特に同社が得意とするAI技術を活用し、当社グループが提供するサービスの拡大及び質の向上を進めてまいります。

以上の結果、売上高70,351千円(前年同期比306.7%増)、営業利益3,217千円(前年同期比51.3%減)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 財政状態の状況

(資産)

当中間連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して162,222千円増加し、2,796,715千円となりました。これは主に売掛金の増加78,730千円、商品の増加43,581千円、旅行前払金の増加6,507千円によるものであります。

(負債)

当中間連結会計期間末の負債は、前連結会計年度末と比較して183,552千円増加し、1,654,433千円となりました。これは主に1年内返済を含む長期借入金の増加122,349千円、旅行前受金の増加24,900千円によるものであります。

(純資産)

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末と比較して21,330千円減少し、1,142,282千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する中間純利益17,955千円の計上及び配当金の支払45,170千円による利益剰余金の減少21,993千円によるものであります。

② キャッシュ・フローの状況

当中間連結会計期間における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は、前連結会計年度末に比べ218,772千円減少し、1,009,555千円となりました。当中間連結会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、68,098千円の資金減少(前年同期は174,048千円の資金減少)となりました。

これは、旅行前払金の減少52,721千円による資金の増加、売上債権の増加48,568千円、棚卸資産の増加42,490千円、旅行前受金の減少30,273千円及び仕入債務の減少20,940千円による資金の減少が主な要因であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは、50,890千円の資金減少(前年同期は25,960千円の資金減少)となりました。

これは、連結の範囲の変更に伴う子会社株式の取得による収入61,791千円による資金の増加、有価証券の取得による支出60,000千円及び連結の範囲の変更に伴う子会社株式の取得による支出40,055千円による資金の減少が主な要因であります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当中間連結会計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは、99,206千円の資金減少(前年同期は232,103千円の資金増加)となりました。

これは、長期借入金の返済による支出53,899千円及び配当金の支払額45,307千円による資金の減少が主な要因であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの2025年1月期通期連結業績予想につきましては、2024年3月14日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

なお、本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,261,109	1,049,887
売掛金	252,974	331,705
商品	712,474	756,056
旅行前払金	74,094	80,601
その他	96,997	112,991
貸倒引当金	△28	△89
流動資産合計	2,397,621	2,331,153
固定資産		
有形固定資産	52,186	51,613
無形固定資産		
のれん	—	138,106
その他	21,111	38,843
無形固定資産合計	21,111	176,949
投資その他の資産		
その他	207,744	282,581
貸倒引当金	△44,170	△45,582
投資その他の資産合計	163,574	236,999
固定資産合計	236,871	465,562
資産合計	2,634,493	2,796,715
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	193,052	205,844
未払法人税等	26,134	28,817
短期借入金	850,000	850,000
1年内返済予定の長期借入金	15,012	42,275
旅行前受金	120,377	145,278
その他	111,370	131,142
流動負債合計	1,315,947	1,403,357
固定負債		
長期借入金	123,436	218,522
資産除去債務	31,496	31,622
その他	—	930
固定負債合計	154,932	251,075
負債合計	1,470,880	1,654,433
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	382,328	382,328
資本剰余金	374,819	374,819
利益剰余金	402,036	380,042
自己株式	△338	△338
株主資本合計	1,158,847	1,136,853
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,365	3,028
その他の包括利益累計額合計	2,365	3,028
新株予約権	2,400	2,400
純資産合計	1,163,612	1,142,282
負債純資産合計	2,634,493	2,796,715

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書  
(中間連結損益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
売上高	1,789,692	2,077,738
売上原価	1,137,103	1,326,872
売上総利益	652,588	750,866
販売費及び一般管理費	616,869	688,562
営業利益	35,719	62,303
営業外収益		
受取利息及び配当金	221	277
貸貸収入	307	51
その他	234	961
営業外収益合計	764	1,289
営業外費用		
支払利息	3,869	5,173
支払手数料	248	282
為替差損	2,607	4,435
その他	307	94
営業外費用合計	7,033	9,985
経常利益	29,450	53,608
税金等調整前中間純利益	29,450	53,608
法人税、住民税及び事業税	18,127	24,717
法人税等調整額	454	10,935
法人税等合計	18,581	35,653
中間純利益	10,868	17,955
親会社株主に帰属する中間純利益	10,868	17,955

(中間連結包括利益計算書)  
(中間連結会計期間)

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
中間純利益	10,868	17,955
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△774	663
その他の包括利益合計	△774	663
中間包括利益	10,093	18,618
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	10,093	18,618

(3) 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前中間純利益	29,450	53,608
減価償却費	6,844	6,900
のれん償却額	—	12,822
引当金の増減額 (△は減少)	415	867
受取利息及び受取配当金	△221	△277
支払利息	3,869	5,173
為替差損益 (△は益)	△853	577
売上債権の増減額 (△は増加)	△47,612	△48,568
旅行前払金の増減額 (△は増加)	△17,449	52,721
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△58,168	△42,490
仕入債務の増減額 (△は減少)	△5,108	△20,940
旅行前受金の増減額 (△は減少)	27,330	△30,273
未払金の増減額 (△は減少)	△4,053	4,131
その他	△77,829	△35,541
小計	△143,387	△41,288
利息及び配当金の受取額	221	277
利息の支払額	△3,854	△5,173
法人税等の支払額	△27,028	△21,913
営業活動によるキャッシュ・フロー	△174,048	△68,098
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△22,184	△523
無形固定資産の取得による支出	△3,738	△11,880
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	—	△40,055
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	—	61,791
投資有価証券の取得による支出	—	△60,000
その他	△37	△223
投資活動によるキャッシュ・フロー	△25,960	△50,890
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	300,000	—
長期借入金の返済による支出	△32,000	△53,899
配当金の支払額	△35,896	△45,307
財務活動によるキャッシュ・フロー	232,103	△99,206
現金及び現金同等物に係る換算差額	853	△577
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	32,946	△218,772
現金及び現金同等物の期首残高	1,127,591	1,228,327
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,160,537	1,009,555

(4) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(中間連結貸借対照表に関する注記)

※ 当社及び連結子会社(株式会社ジープ、株式会社産経旅行)においては、運転資金の効率的な調達を行うため取引銀行7行と当座貸越契約及び貸出コミットメント契約を締結しております。これらの契約に基づく当座貸越契約及び貸出コミットメントに係る借入未実行残高は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2024年1月31日)	当中間連結会計期間 (2024年7月31日)
当座貸越極度額及び貸出コミットメントの 総額	1,750,000千円	1,750,000千円
借入実行残高	850,000	850,000
差引額	900,000	900,000

(中間連結損益計算書に関する注記)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
給料及び手当	176,814千円	175,821千円
貸倒引当金繰入額	652	1,413
退職給付費用	2,092	2,139

(中間連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

※ 現金及び現金同等物の中間期末残高と中間連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前中間連結会計期間 (自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)	当中間連結会計期間 (自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)
現金及び預金勘定	1,193,018千円	1,049,887千円
預入期間が3か月を超える定期預金	△32,481	△40,332
現金及び現金同等物	1,160,537	1,009,555

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年2月1日 至 2023年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,624,230	151,283	1,775,513	14,178	1,789,692	—	1,789,692
セグメント間の内部売上高又は振替高	207	1,817	2,025	3,117	5,142	△5,142	—
計	1,624,438	153,100	1,777,539	17,295	1,794,835	△5,142	1,789,692
セグメント利益	215,210	9,257	224,468	6,609	231,078	△195,358	35,719

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業を含めております。

2. セグメント利益の調整額△195,358千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
該当事項はありません。

II 当中間連結会計期間(自 2024年2月1日 至 2024年7月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	中間連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ゴルフ事業	トラベル 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	1,732,427	279,609	2,012,036	65,701	2,077,738	—	2,077,738
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	8,325	8,325	4,650	12,975	△12,975	—
計	1,732,427	287,934	2,020,361	70,351	2,090,713	△12,975	2,077,738
セグメント利益	308,333	24,269	332,603	3,217	335,821	△273,517	62,303

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告メディア制作事業、DX推進事業及びSES事業を含めております。

2. セグメント利益の調整額△273,517千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報  
(のれんの金額の重要な変動)

中間連結会計期間において、株式会社エスプリ・ゴルフの株式を取得し連結子会社としたことにより、「トラベル事業」においてのれんが105,520千円増加しております。

中間連結会計期間において、株式会社ノアの株式を取得し連結子会社としたことにより、「その他」の事業においてのれんが45,408千円増加しております。

(企業結合等関係)

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：株式会社エスプリ・ゴルフ

事業の内容：旅行業法に基づく旅行業

②企業結合を行った主な理由

株式会社エスプリ・ゴルフは、国内外のゴルフツアーを中心とした旅行サービスを展開しております。国内及び世界各地の名門ゴルフ場との強いコネクションを有し、『マスターズ』観戦ツアーをはじめとする付加価値の高いゴルフツアーを長年提供しておりますため、既存のトラベル事業のサービスの拡大及び質の向上に対して効果的なシナジーがあると考えております。

③企業結合日

2024年2月1日

④企業結合の法的な形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 中間連結累計期間にかかる中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間

2024年2月1日から2024年7月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

先方との取り決めにより非開示とさせていただきます。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料 20,000千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれんの金額

105,520千円

②発生原因

株式会社エスプリ・ゴルフの今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

5年間の定額法によっております。

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	77,243千円
固定資産	21,736
資産合計	<u>98,979</u>
流動負債	110,247
固定負債	44,253
負債合計	<u>154,500</u>

(取得による企業結合)

1. 企業結合の概要

①被取得企業の名称及び事業の内容

被取得企業の名称：株式会社ノア

事業の内容：DX推進事業、SES事業

②企業結合を行った主な理由

株式会社ノアは、DX推進事業及びSES事業を展開しております。同社の持つスキルと経験は、ゴルフ業界のDXを推進する当社グループにとって、効果的なシナジーを生み出すものと期待しております。また、同社が持つAIに関する知見を活用することにより、グループで提供する各種サービスの拡大及び質の向上に対して大きく寄与することと考えております。

③企業結合日

2024年5月1日

④企業結合の法的な形式

株式取得

⑤結合後企業の名称

変更はありません。

⑥取得した議決権比率

100%

⑦取得企業を決定するに至った主な根拠

当社が現金を対価として株式を取得したことによるものです。

2. 中間連結累計期間にかかる中間連結損益計算書に含まれる被取得企業の業績の期間  
2024年5月1日から2024年7月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

先方との取り決めにより非開示とさせていただきます。

4. 主要な取得関連費用の内容及び金額

アドバイザーに対する報酬・手数料 10,000千円

5. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

①発生したのれん

45,408千円

②発生原因

株式会社ノアの今後の事業展開によって期待される超過収益力であります。

③償却方法及び償却期間

5年間の定額法によっております。

6. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

流動資産	151,053千円
固定資産	12,129
資産合計	<u>163,182</u>
流動負債	63,585
固定負債	95,005
負債合計	<u>158,590</u>

(事業譲受)

1. 事業譲受の概要

①事業譲受の内容

事業譲受の範囲は、有限会社エスコムが保有しているフリーペーパー「ゴルフマガジン九州」の運営事業を対象としております。

②事業譲受を行った主な理由

当社グループのサービスラインナップを拡充させるとともに、既存サービスとの相乗効果が見込めるものと考えております。

③事業譲受日

2024年4月1日

④企業結合の法的形式

事業譲受

2. 譲受事業の取得原価及び対価の種類ごとの内訳

先方との取り決めにより非開示とさせていただきます。

3. 主要な取得関連費用の内容及び金額

該当事項はありません。

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

のれん及び負ののれんは発生しておりません。

5. 企業結合日に受け入れた資産及び引き受けた負債の額並びにその主な内訳

該当事項はありません。